

令和4年12月定例会一般質問

通告3

質問 郷土館における山田洋次監督のブース開設の準備について

答弁 課題が多く難易度は高いと思われます

18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。郷土館における山田洋次監督のブース開設の準備について質問いたします。

去る9月17日、NHKで山田洋次監督書き下ろしの「続 遥かなる山の呼び声」が放映されました。最初の高倉健主演の武佐の旧駅舎を舞台にした映画から、NHKによる阿部寛、常盤貴子のリメイクがあり、物語はその後の二人の再会を予感するところで終わっていました。それがこの9月17日、山田洋次監督が自ら台本を書き下ろして、当町や札幌でのロケを経てオンエアされたものです。

道内に、数多ある自治体が強く求め、しかし、かなわない映像、それも映画撮影による情報発信を軽々と実現する我が中標津町、これほど恵まれた町はそうないのではないかと思います。山田洋次監督は中標津町を舞台に「家族」や「釣りバカ日誌ファイナル」そして「遥かなる山の呼び声」さらに「続 遥かなる山の呼び声」とこの地をロケーションとする映画を多数撮っておられます。

監督のこの地にかける思いは映像を通して見ていくと、うなずけるものがあるのですが、私たち中標津町民は、監督がこの地の特性を映像で表現した、その価値をこれから生まれる子供たち、観光で訪れる人たち、多くの人々に共感していただくために積極的に情報発信していく責任があるのではなかろうかと思うようになったのですが、教育長はいかがお考えになりますでしょうか。

私は中標津に映画監督山田洋次氏の事績を語り伝える施設があっても良いのではなかろうかと考えますが、まずは新設される郷土館の展示企画を中心に同氏の事績をしっかり紹介するブースを設けることは可能であると考えます。そのためにも意識して情報やデータの収集に力を尽くす時ではないでしょうか。さらに、今回のオンエアに先駆け、NHKでは中標津を紹介する番組を9月3日から17日までの間、2016年に放送さ



れた「酪農の街に夢をいだいて～中標津町」などの番組を皮切りに多数再放送してありました。こんなことも、なかなかないのだろうなと思われませんが、これらのデジタル情報や、今般、中標津の昔と今を対比する写真集が発刊されましたが、これについてもニュース番組で取り上げられています。

今では見逃した番組を振り返って見ることができる時代になっておりますが、我が町に関わる様々なデジタル情報についても、しっかりと収集して後世に伝えていく必要を感じます。教育長はいかが思いますでしょうか。

今回の「続 遥かなる山の呼び声」には、今後、地域が乗り越えていかなければならない酪農の問題、家族の絆、強く念ずれば奇跡を起きるよ、といった私たちの未来が幸せであるためのメッセージがたくさん込められているように思います。

ぜひ将来の山田洋次記念館の礎を築くために、この地から、今からの精進を始めるべきではないでしょうか。よろしく御答弁お願いいたします。

【答弁：教育長】

松村議員御質問の郷土館における山田洋次監督のブース開設の準備について御答弁申し上げます。

御質問にありましたとおり、9月17日に中標津の酪農を舞台としたドラマ「続 遥かなる山の呼び声」がNHKBSプレミアムで放送されまして、6月に町内で撮影が行われた際には舞台となった牧場をはじめ、農協・商工会など町を挙げて撮影に協力させていただいたと私も伺っており、特に撮影に参加しドラマ出演した計根別学園の児童生徒たちにとって、大変貴重な体験ができたものと思っております。

今回のドラマは、名作映画のリメイクドラマの続編で、日本映画会の巨匠である山田洋次監督が一から書き下ろされた作品であります。制作元であるNHKや松竹株式会社によりますと、続編の制作にあたっては前作の視聴率が高かったことに加え、山田監督自らが前作の完成後、すぐに続編の制作を決定されたとのことでした。

山田監督は養老牛温泉がお好きで、地元の方々との親交が深くこの地域に愛着を持っていたいただいていると伺っており、その山田監督がこれまで本町を舞台に手掛けた作品は、当地に対する想いやメッセージを含めて、歴史的にも大変貴重なものであると考えております。

現在、教育委員会で作成を進めています中標津町文化財保存活用地域計画では、様々な文化財の洗い出しを行っており、その中には映像などの文化芸術作品も含まれております。将来的にはそれらを保存活用し施設での展示をはじめ、多様な媒体による情報発

信により、観光振興、地域活性化に活かし、交流人口・関係人口の拡大につなげていければと考えているところであります。

また、郷土資料の収集につきましても、町の歴史や文化を後世に伝え残すためにも、引き続き行うことは申し上げるまでもありませんが、その手法の一つとして資料のデジタル化は必要なことと考えております。

既に、郷土館でこれまで実施してきた7万点以上の古い写真や、10数本実施してきた8ミリ、16ミリフィルムのデジタル化とともに、これまでの山田監督の作品を含むデジタル情報についても収集を行っており、今後におきましても継続してデジタル化の推進を図っていく考えであります。

郷土館における山田監督のブース開設や記念館開設の準備につきましては、私としても実現できれば素晴らしいことであると思うところですが、御本人の意向はもとより、クリアしなくてはならない問題や関係各所の御理解、御協力が必要となるなど、難易度は高いと思われ、山田監督をはじめ、本町に関わりの深い方たちの作品も他に多数あることから、これらを含めた形により町民の共有の財産である郷土資料の適正な保存、管理、活用を図ってまいりますので、御理解願いたく存じます。

【質問：松村 康弘 議員】

教育委員会からの御答弁、再質問はございません。誠意ある回答をいただいたと思っております。

しかしながら、答弁の最終局面において、御本人の意向はもとより、クリアしなくてはならない問題や関係各所の御理解、御協力が必要となるなど難易度は高いとおっしゃっています。私もそうだと思います。

この件については次の3月議会に町長部局の皆さんに対して問題提起をしていきたいと思っております。以上で質問を終わります。